

## 今日の説教のポイント<使徒言行録 13 章 4-12 節>

### ①「聖霊によって送り出されたバルナバとパウロは、～ユダヤ人の諸会堂で神の言葉を告げ知らせた」(4～5)

昔は街中で通り行く人に福音を語り伝道した、そういう話をよく聞かされました。信仰を持ったならそれ位できないといけないのか、と考えたこともありました。しかし、今日の箇所には、伝道に送り出されたパウロたちはまず、すでに旧約聖書の神様を知っている人々の所で、「その神様がイエス・キリストをお与え下さったのだ」と語ったことが記されています。信仰を持つとは、私たちが劇的な変化をしたり、不思議な力を身に覚えたりすることが大事なのではなく、イエス・キリストを通して神様が与えて下さった恵みを覚えながら、御言葉に従ってしっかりと生きて行くことが大事なのです。その中で伝道の機会も与えられます。

### ②「この男(偽預言者)は、～という賢明な人物と交際していた」(7)

「賢明な人物」というのは、キプロス島の地方総督です。しかしその「賢明な」彼が、魔術師で偽預言者であったバルイエスの言うことを聞いていたのです。この人がと思う人が占いや新興宗教を頼りにしている話は二千年経った今もよく聞きます。人間は自分一人で事を決するには不安な存在なのでしょう。そのこと自体が問題なのではありません。問題は、何に頼るか、すなわち、私たちの生を何の土台の上に据えるかです。賢明な総督は賢明な判断を下し、バルイエスではなく主イエスを信じる者となったのです。パウロがなした驚くべき出来事を見たからだけでなく、「主の教えに非常に驚いたから」と記している点も大事です。

### ③「すっかり見えなくなり、～だれか手を引いてくれる人を探した」(11)

偽預言者は神様に罰せられ、目が見えなくなりました(10～11)。どこかで見たような場面です。そうです、パウロがキリスト者を迫害するためにダマスコへ行く途中で、復活の主イエスに出会い、撃たれ、目を見えなくされ、手を引かれてダマスコに行った時と似ているのです(9章)。ということは、あの時にパウロがしたように、神様の前に自分の罪を深く悔い改めて歩み出すなら、必ず道は開かれて行くのです。今日のような箇所からも、神様の深い憐れみを聞き取ることができるのです！